資料2

令和7年度　土砂災害防止功労者表彰者　一覧

【個人】

推薦団体	氏名	表彰基準	功績概要
北陸地方整備局	尾畑　納子（富山国際大学名誉教授（前立山砂防女性サロンの会会長））	（3）土砂災害防止思想の普及	●「立山砂防女性サロンの会」設立当初より会の運営に主体的に携わり、平成18年からは会長に就任され、講演会や勉強会、現地視察の企画・運営に取り組まれ、国内外の防災施設等の視察を行った際には、現地での女性団体との交流を深める等、災害防止思想の普及に貢献された。 ●令和6年に同会が出版したかたりべ絵本「カモシカのカルデラ物語」は、富山県内の小学校と公立図書館に配布され、会員が子供たちに読み聞かせを行うなど防災教育に大いに貢献している。 ●立山カルデラ砂防博物館の評議員や世界遺産ユースプログラム講師、砂防・地すべり技術センター理事や評議員、防災士等として幅広い社会活動による土砂災害防止の啓蒙活動を行っている。 ●富山国際大学教授として「とやま地域学」等の講座を開設し、富山県の土砂災害、立山砂防事業等について、大学生への教育普及に務めている。
近畿地方整備局	藤田　正治（一般財団法人　砂防・地すべり技術センター研究顧問）	（7）研究、発明	●京都大学において、永年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績をあげられたほか、地域防災活動にも活用可能な警戒避難支援ツールを開発するなど、地域防災力の向上にも大きく貢献した。 ●流砂や河床変動の研究に基礎を置きつつ、幅広い視点から土砂移動に伴い発生する様々な問題解決につながる先駆的な研究を展開し、多くの論文を砂防学会誌をはじめとした学術誌に投稿されている。 ●特に、様々な降雨パターンにおいて避難行動に影響するハザードの発生を予測する、警戒避難に対する支援ツールとしての複合土砂災害シミュレータ（SiMHiS）を開発した。このシミュレータは、地域・地区での事前の防災活動にも活用されており、地域防災力の向上に貢献している。 ●国土交通省や近畿地方の府県を中心に数多くの委員会等に参加され、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面から的確な助言、指導を行うなど、砂防行政においてより効果的な施策を立案、展開するため多大なる貢献をしている。 ●大学において質の高い教育を実践し、これにより多くの優秀な砂防技術者を輩出することに貢献した。その他，各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、土砂災害にかかる講義、説明を行うなど、講演や広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努めている。 ●令和2年から令和4年までは、公益社団法人砂防学会学会長として、全国各地で発生した土砂災害に対する現地調査等を主導し、緊急調査団を編成して緊急調査を行うとともに、これら調査に基づく調査報告をとりまとめて公表し、災害発生原因や今後の対策等の検討に資する取組を行っている。

【団体】

推薦団体	団体名	表彰基準	功績概要
奈良県	室生自治会	（3）土砂災害防止思想の普及（10年以上）	●宇陀市は奈良県の東部に位置する地域であり、その中でも室生地域は、女人高野としても知られ、多くの国宝を有する古刹室生寺が位置する地域であるとともに、日本でも最大級の地すべり防止区域（144.99ha）を有する地域であり、昭和35年から地すべり対策事業が実施されてきた。 ●当該地域においては、地すべり対策工により傷ついた田園風景を修復するため、景観自然事業により「室生公園あさぎりの里」が整備された。 「室生公園あさぎりの里」は総面積9,790㎡の広大な公園で、当該団体は、平成13年以降、公園の草刈り、あじさいの剪定、公園の清掃等を年3回実施し、年間延べ約100名の動員で景観の環境保全活動を行っている。 ●同公園内には、地すべり災害の恐ろしさを理解し、地すべり災害への対処方法や地すべりの対策事業の必要性等を学べる施設として、「むろう地すべり見楽館」が設置されており、当該団体は、平成13年のオープン以来、設備の点検等の施設管理を担うとともに、来館者に対して地すべり防止対策の必要性を周知する活動を続けている。
広島県	早稲田学区自主防災連絡協議会	（4）土砂災害に対する警戒避難体制の整備（10年以上）	●当該団体は、平成26年8月に広島市に甚大な被害をもたらした広島土砂災害での教訓を生かすため、地域防災力の向上を目指し、自主防災活動を精力的に進めてきた。 ●平成30年7月の西日本豪雨災害では、早稲田学区内でも土砂災害が発生したことをきっかけとして、これまで積み重ねてきた活動を活かしながら、地域におけるさまざまな課題を解決するための方針と具体的な活動内容を整理して、「“日常に＋（プラス）防災を”」をキャッチフレーズに、防災が特別なものではなく、日常の生活の一部となり、地域の文化として定着していくことを目指した「早稲田学区地区防災計画」を令和5年3月に作成した。 ●地区防災計画の実施ガイドである「わせだ防災プラン」や「わせだ防災マップ」などの活動用のツールを作成し、広報誌や地域イベントでの情報発信、各種防災訓練、住民参加型ワークショップの実施などにより、地域全体で防災まちづくりに取り組んでいる。 ●広島土砂災害から10年余にわたる自主防災活動を通じて、地域の災害特性である土砂災害に対する警戒避難体制を整備するとともに、地域住民の防災意識を向上させ、次世代を担う防災リーダーの育成にも力を注いでいる。 ●警察・医師会・メディア・民間企業等の多方面の機関・団体とネットワークを構築することにより、土砂災害をはじめとした災害に強いまちづくりを推し進めている。